

事業所訪問

こんにちは
健保組合です！

前佐原陸運

の巻

まさに「小春日和」という言葉がピッタリだった十一月二十九日、室内では思わずジャケットを脱ぎたくなる、そんな穏やかな日に、事業所訪問の第一六回目としてお邪魔したのは、佐原市に所在する有限会社佐原陸運でした。

私たち事務局は、今回の取材にお忙しいなか同行していただき、多数助言くださった健康管理事業等推進委員会の指導宣伝部会（銚子通運）の高木部長と、J.R佐原駅で待ち合わせの約束をしていましたので車を同地へ走らせました。

国道五一号に面した 交通アクセスのよいところ

皆さん、佐原の街というところなイメージをおもちでしょうか？ 私たち事務局も皆さんと同様に「水郷・菖蒲・鰻・香取神宮……etc」、

といった水量豊かな利根川を背景に

もつ清らかな風景が浮かんできました。菖蒲の時期になると、美しく着飾った花たちが大勢の見物客の目を楽しませてくれ、とてもにぎわうのだそうです。佐原市街に入ると、予想どおりの街並みに触れることができましたが、「開発」というものが確実に進行していると感じました。便利になることは日常生活の上で必要なことですが、大切な歴史を後世のために上手に残して、今と昔が互いを尊重し合って共存する街づくりを進めてほしいと願うのでした。

私たちは、高木部長と落ち合い、今日の目的地に到着しました。佐原陸運は国道五一号にほぼ面した場所であり、物流における交通のアクセスが非常によいところにあります。事務所のドアを開け「こんにちは、健保組合です！」とごあいさつ申し

上げると、もうすぐ師走という忙しいなか、業務中だった当組合の議員をされている飯田部長が私たちを出迎えてくださいました。

応接室に案内され、取材が始まりました。対談には、同社の小早志社長がご多忙にもかかわらず応じてくださり、多岐にわたって熱っぽく語ってくださいました。

安心して働ける職場づくりを 社員教育を徹底

まずは、組合の現況報告に始まり、その後、佐原陸運の業務内容についてお聞きすることとなりました。同社は、主に飼肥料の運搬をされており、主に飼肥料の運搬をされており、鹿島から酪農農家へ輸送されているそうです。輸送地域もかつては香取地区に集中していたようですが、農家が遠隔地へ移転していくことによってその輸送範囲も若干広がっているとのことでした。サイロ（飼肥料貯蔵庫）へ運搬物を入れる作業があるとのこと、それが高い位置にあるので危険が伴うこともあるそうです。先代社長が不慮の事故で逝去されたことを教訓に、現社長は安全面を非常に危惧されておられました。



小早志社長(中)、飯田部長(左)、高木部長(銚子通運)

安全衛生に関して社員教育を徹底して実践し、同時に従業員のことを考え、安心して働ける職場づくりを心がけておられるようでした。このことは、社員の方々が長く定着していることがなよりの裏付けでしょう。同社は、昭和三十六年一月の設立とのこと。先代が培った事業を大切に踏襲したかたちで現小早志社長が引き継がれたわけですが、同氏は「情報をキャッチするアンテナを大きく広げて情報収集をし、自分なりにかみ砕いて時代のニーズに応じた事業展開を基本に」と考えておられるようです。

ここで私たちに、かつて手がけた事業を披露してくださいました(このとき、氏の顔が一瞬輝いたのは気のせいだったのでしょうか)。それは、今までと違った分野での事業展開だったのですが、残念ながら現在は継続してはいないようでした。氏は、「会社に迷惑をかけた」とおっしゃられました、私たちは、新しい

発想で信念を貫いたことは決して無駄にはならない、将来の糧に必ずなると確信したことは、申すまでもありません。

このようにアイディアマンでいらつしやる同氏ですので、「まだまだ駆け出し」と謙遜されておられましたが、自社のみにとどまらず香取地区のリーダーとして今後ますます活躍していただきたいと願うのでした。

その日に生じた問題は その日のうちに解決

話題は尽きないところでしたが、最後に小早志社長の健康づくりについてお尋ねすると、学生時代にはスポーツをされておられたようですが、現在は何もされていなかったとのこと。ただ、常に心がけていることは「今日のこと、今日は今日のこと」。つまり、その日に生じた問題は、翌日に持ち越さずその日のうちに解決してしまおう努力すること。そうすることによって気持ち切り替え、ストレスをためないようにしておられるとのこと。また、疲れた姿を従業員に見せないように努め、士気の高揚に水をささないように心がけているそうです。

しかしながら、経営者には悩みはつきものとご推察いたします。どうかオーバーワークにならないように、組合の人間ドックでからだのケアもお忘れなく！

こうして、まだお若い小早志社長のフットワークのよさと、もの静かに話されるなかにも秘められた情熱が非常に印象深かった取材にピリオドを打つことにいたしました。業務ご多忙な時期に取材にご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。

さあ、カレンダーもあと一枚を残すばかり。十二月はあつという間に経過してしまします。そして来年は、亥年。この機関誌がお手元に届くころには素敵な新年を迎えられていることでしょう。

ところで、皆さんどんな初夢を見ましたか？ ユニークな初夢を見た方は、どうぞ読者の広場にご寄稿ください。『初夢特集』を企画したいと思いますので……。